

政治経済学雑誌 論文等執筆規程

改定日：2005年6月7日

政治経済学雑誌への投稿原稿を執筆する際には、以下の様式に従うこと。

1. 研究論文

- a. 日本語または英語を使用し、A4用紙に横書きで記述すること。論文本体にはカバーページを付け、そこに、論文タイトル、投稿者の氏名および所属、投稿資格、300字(英文の場合は150語)以内の要約、電子メールアドレス、謝辞等を記入のこと。カバーページの体裁は、投稿者が任意に設定のこと。
- b. 論文の本体は、本文、付録(巻末に集める)、注(巻末に集める)、参考文献の順に記述すること。本体は1頁あたり40字×30行(英文の場合は、12ポイント以上、ダブルスペース)とする。また、図表・数式や注・参考文献表等を含めた総ページは、日本文、英文ともに原則30ページ以内とする。
- c. 論文の本文1頁目は、論題を再掲した後すぐに本文に入ること。論文本体には、氏名・所属等の投稿者が特定出来る記述をしないこと。
- d. 付録が複数個ある場合には、本文中ではA1. A2...のように付番して指示した上で、本文の後、脚注の前に集めて提示すること。
- e. 注は、本文中では上添えの数字で順に付番した上で、付録の後、参考文献の前に一括して提示すること。具体的な記述は、以下の例Aか例Bの何れか一方を選択すること。

例A：(本文中)通常の議論では、直接投資は日本では二つの概念からなるといわれている⁽²⁾。すなわち...

(注のページ)

(1)...

(2)これに対して幾つかの反論があることは承知しているが、しかし...

(3)...

例B：(本文中)ダールによると、この概念は参加と競争から構成される⁽¹⁾。

(注のページ)

(1)Robert A. Dahl, *Polyarchy: Participation and Opposition*, (Yale University Press)1971, pp. 1-9.

(2)Ibid.,p.12

(3)斎藤眞,『アメリカ革命史研究-自由と統合』東京大学出版会,1992年,
100-102ページ。

f. 参考文献は本体の巻末に集め,法文参考文献(五十音順)および外国語文献(アルファベット順)の順序で通し番号を付けること。また本文中では,氏名の後にこの番号を付けて参照すること。

例:(本文中)同じことは,山本[2]及び Sakai [12]によっても証明されている。

(参考文献一覧)

[雑誌論文]

[1]...

[2]山本晃一,「銀行行動の理論 - 信用創造と資産選択 - 」,『季刊理論経済学』,
第22巻第2号,1971年8月,pp.13-24。

[単行本]

[3]山下修『不確実性下の経済学』,東洋経済新報社,1989年。

[4]...

[雑誌論文]

[12]Makoto Sakai,"International Duopoly with Overseas Production and
Strategic Trade Policies",*Journal of Economics*,Vol.73,No.3,Nov.2001
pp.227-246。

[13]...

[単行本]

[15]Yasuki Ishikawa,*Economics on Multinationals*,White Hill,2002.

2. 研究ノートおよび展望論文の記述様式は,要約を付けないことを除いて研究論文に準ずる。ただし,総ページ数は,図表や注等を含めて12ページ以内とする。

3. 書評の記述形式は,要約を付けないことを除いて研究論文に準ずる。ただし総ページ数は,図表や注等を含めて6ページ以内とする。